広報担当やリポーターが、皆さんのところにおじゃまします。
地域の行事など、身近な情報をお寄せください。
圃地域づくり振興課　広報くじ担当　☎52-2116　FAX52-3653

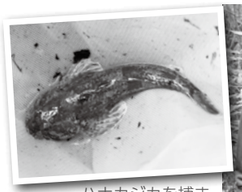
梅沢　政隆
リポーター

大久保勝男
リポーター

大石　純夫
リポーター

ハナカジカが住める環境を守ろう

ハナカジカ観察会　8月26日


ハナカジカを捕まえて喜ぶ児童

山形小学校は、絶滅のおそれがあるハナカジカの保護等を目的に、例年、水質や生物調査を実施しています。この日の観察会では玉網で２匹の採捕に成功。約 5㎝のハナカジカを捕まえた木地谷奏志さん（６年）は「これからも環境をきれいに守っていきたいです」と話しました。

養殖技術の進歩に貢献

国産初「ニチモウ式モジュール RAS」を公開　9月17日

施設内に設置された養殖用水槽

水産商社のニチモウ㈱が、久慈市漁協の旧製氷冷凍工場に自社開発した国産初のRAS（循環型の陸上養殖システム）の試験モデルを整備。水質管理や給餌が自動化された30トン水槽２基でニジマス約2500匹を養殖し、試験運用を通じて養殖の低コスト化を目指すとしています。

カブ愛好家が久慈に集結

第２回久慈市カブミーティング　9月22日

カブ談義に花を咲かせる参加者ら

市地域おこし協力隊の松井淳二さんが、第２回久慈市カブミーティングを開催。県内外から約150人が参加し、愛車を並べた参加者同士が交流を深めました。福島県から参加した村松智喜さんは「初めて久慈市に来ましたが、良い所だと思います。次回も参加します」と話しました。

社会インフラを支える仕事を学ぶ

地域を守る建設業の魅力を中学生へ　9月16日

まちの被害状況を把握し、災害復旧について話し合う生徒たち

東方地方整備局が宇部中学校で建設業に関するイベントを開催。生徒 24 人が参加し、災害復旧のワークショップや建設 DX 体験を通して、地域の安全・安心を守る建設業の役割や魅力を学びました。上山さくらさんは「全員で話し合い、最適な対応ができました」と話しました。

今年もきれいに咲きました

第28回夏井町コスモス園祭　10月４日

伝統芸能「生平駒踊り」を元気よく披露した夏井小学校の児童たち

夏井川堤の景観を創る会が、コスモスの家周辺でコスモス園祭を開催。会場では、夏井小学校の全児童と地区保存会による生平駒踊りや、夏井神楽クラブによる夏井大梵天神楽などが披露されました。150 人あまりの来場者は、観覧や出店での買い物を楽しみました。（梅沢）

安心安全な環境づくりのために

地域安全に関する協定締結式　9月８日

協定書を掲げる株式会社ベルジョイスの小苅米秀樹代表取締役会長（中央左）と久慈警察署の大倉署長

株式会社ベルジョイスは久慈警察署と、同社の移動販売事業を通じて子どもや高齢者の見守り活動を実施する「地域安全に関する協定」を締結。署名した小苅米秀樹会長は「協定をもとに連携し、地域の安心安全な環境づくりの一助となれば幸いです」と語りました。

▲電子書籍（無料）

1／タマシン・アレン先生について学ぶ児童たち　**2**／マンガ「タマシン・アレン」を読んだ感想を話し合う児童たち　**3**／書いた手紙のアドバイスをもらう児童

10 年後のわたしへ

10年後のわたしへの手紙コンテスト～アレン先生に学ぶ、未来への一歩～

市は、ふるさとゆかりの偉人マンガの製作と活用事業の一環として、市内の小学５年生から中学３年生を対象に「10 年後のわたしへの手紙コンテスト」を開催しました。９月 28、29 日の２日間、久慈湊小学校で６年生 27 人を対象に、コンテストへの応募に向けたワークショップを実施。児童らは、令和５年度に公益財団法人Ｂ＆Ｇ財団の助成を受けて制作されたマンガ「タマシン・アレン」を通じて、タマシン・アレン先生について学んだ後、10 年後の自分に宛てた手紙を書きました。野田和花さんは「常に自分ができることを考え実行していたアレン先生はすごいと思いました。10 年後を想像するのは難しかったけど、手紙は上手く書けました」と話しました。

山根が賑わい輝いた１日

山根の日　9月23日

大きな輪になってフィナーレの盆踊りを楽しむ参加者たち

新山根六郷会が山根市民センターで、山根地区を盛り上げようと、山根の日を開催しました。会場では、郷土食の軍配餅やスイーツ、体験コーナーなど約40店舗が出店。山根神楽やダンスなどのステージ発表や抽選会付き盆踊りも行われ、多くの来場者で賑わいました。（大久保）

実りの秋、稲刈り体験

大川目小学校稲刈り体験　9月28日

鎌を使い丁寧に稲を刈る児童たち

大川目小学校の５年生10人が学校近くの田んぼで稲刈りを体験しました。同校児童らは、５月に植え付けをした稲の成長を感じながら、一株ずつ丁寧に刈り取りました。四百苅大臥さんは「稲が思うように切れなくて大変な作業でした。脱穀作業も頑張ります」と話しました。

子どもとの関わり方を学ぶ

令和８年度久慈市発達支援研修会　9月５日

質問をして学びを深める受講者

元気の泉で発達支援研修会が開催され、15 人が参加。岩手県立療育センターの矢吹裕哉さんを講師に迎え、子どもの言葉を育む親子の関わり方について学びました。野田村から参加した大沢宏輔さんは「学んだことを意識して子どもへの声がけをしていきます」と話しました。

職業選択のヒントを学ぶ

教えて先輩！～社会人から学ぶ進路～　9月11日

地元で働く理由や仕事のやりがいを真剣に聞く生徒

一般社団法人久慈青年会議所が、久慈翔北高校で久慈地域で働く社会人と生徒の交流会を開催。同校の１年生89人が地元で働く先輩の話を聞き、職業選択への理解を深めました。坂紗來さんは「さまざまな職種の話を聞き、仕事のやりがいを知る機会になりました」と話しました。